

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 9月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202081
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	ケアクオリティ 大空
所在地 (電話番号)	〒420-0812 静岡市葵区古庄3丁目23-1 Tel 054-263-7101

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年7月25日

【情報提供票より】(平成20年6月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	9.7

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(平成20年6月19日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名
要介護3	9 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80 歳	最低 58 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	望月青島クリニック、静岡済生会病院、つかもと歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

イチジクの畑が点在する静かな住宅街の一面にある「ケアクオリティ大空」は、地域との結びつきを力点に置いた真の地域密着型サービスを目指しているホームである。利用者が地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを追及するための職員間での話し合い、運営推進会議を通じての行政、家族、多くの地域の方々を交えた中での討議がされている。敷地内にある家庭菜園には近くにある県立農業高校の生徒の知恵を借り、その中で利用者との交流を模索するなどの計画もあり、その実現を期待したい。また、ホーム内においても、利用者や職員の明るい笑顔や会話には、やさしさと家庭的な雰囲気が醸し出されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価実施後、改善に向けて職員会議や運営推進会議において取り組みが見られ、指摘のあった項目は改善が図られている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を全職員にミーティングや会議等の場において伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の外部評価の改善点についても改善の跡が伺われる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を地域との結び付きの第一として捉え、定期的開催し、現状報告やホームの抱える問題や協力の依頼などの議題が話し合いとして持たれ、これが運営面に活かされている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議の場において、家族代表から意見等を求めているほか、家族等が訪問された場合には、近況報告を話した中で意見・苦情等を聴取するようになっている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭り、ふれあいの集い、防災訓練等には利用者とともに積極的に参加をしたり、側溝の掃除などの地域との共同作業も行っている。また、自前の畑を活用して、近くの農業高校の生徒の知恵を借りるなどした交流も視野に入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を職員全員によって見直し、地域に根ざし共に触れ合う関係を築くよう、地域生活の継続支援及び事業所と地域の関係強化を謳った理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々生活をする中で、管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合い、地域との結びつきを深めようと努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、ふれあいの集い、防災訓練等には利用者とともに積極的に参加をしたり、側溝の掃除などの地域との共同作業も行っている。また、自前の畑を活用して、近くの農業高校の生徒の知恵を借りるなどした交流も視野に入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員にミーティングや会議等の場において伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の外部評価の改善点についても改善の跡が伺われる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を地域との結び付きの第一として捉え、定期的に行われ、現状報告やホームの抱える問題や協力の依頼などの議題が話し合いとして持たれ、これが運営面に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な書類は郵送せずに直接担当窓口を持参するなど、担当窓口との連携に努め、サービス向上の一助としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所での暮らしぶり等を記したホームだより「大空」を毎月発行して金銭報告とともに家族に送付したり、特に体調の変化や問題が生じたときには連絡を密にするなど家族との信頼関係に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	運営推進会議の場において、家族代表から意見等を求めているほか、家族等が訪問された場合には、近況報告を話した中で意見・苦情等を聴取するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしており、退職する場合には1ヶ月前に申し出をさせ、その間を引き継ぎ期間として利用者へのダメージにならないよう努めているが、職員の新規採用が難しく苦勞している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談や参考本(マンガによる「はじめての認知症」)を読ませて感想文を提出させるなど、職員本人の自覚を促す施策を行っているほか、法人内外の研修にはローテーションを考えて参加させるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の他ホームとは交流は行っているが、地域同業者とは十分な交流がもたれていない。	○	ホームのサービスの質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であることを認識し、同業者とのネットワークづくりや勉強会等の取り組みができることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後一週間は観察期間とし、本人の慣れ具合や様子により家族等と相談しながらホームの雰囲気に馴染まれるよう支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や経験則に照らした関係づくりに配慮し、共に喜怒哀楽をする中で、先達である利用者本人から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のサービス担当者会議においては、モニタリングのほか利用者の立場に立った思いや暮らしぶりについて話し合いが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームリーダーが中心となり、各利用者担当の職員がモニタリングを月1回行い、ユニット会議で意見を出し合うなどしてサービス計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員が中心となり、問題点を確認し、3ヶ月に一回は見直しをしている。対応が出来ていない変化があった場合は、必要な関係者と話し合いを行って見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の状況に応じて柔軟に対応している。また、突然の外泊や外出でも常に支援するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を最優先し、ホームの主治医又は今までのかかりつけ医を継続するかは、希望通りにしている。事業所では、常に複数の医療機関と連絡を取りながら、緊急時に備えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ユニット会議において重度化や終末期のあり方について話し合いが行われており、医師からのアドバイスにより、本人、家族等との話し合う中で対処することとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者に向けている言葉掛けや、対応などが一人ひとりの、誇りや尊厳を傷つけていないか、日頃から確認や改善等の話し合いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来る様、職員同士が話し合って対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューなどは、利用者・職員が相談しながら決め、また、出来るだけ季節のものを取り入れたり、食事時間はゆっくりと一人ひとりのペースに合わせ、食事を楽しむように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間を大事にし、職員同士が声を掛け合いタイミングを見ながら、入浴を楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、洗濯干しや取り込み、食器洗いなど、また、趣味がある人達には職員が相談にのるなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れる中で、季節や地域の状況を見て外出を楽しめる支援を行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解しており、常に利用者の行動に注意を払っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。また、地域の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食生活については、栄養バランスや水分補給量など、常にチェックしており、また、利用者の体の状態に応じてきざみやお粥などの対応をするなど、利用書への食事には気配りをしているが、日々のカロリーの摂取量についての的確な把握がされていない。	○	利用者の摂取カロリーの把握が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は居心地が良いように、花や飾りづけなど季節感を演出しており、安心して生活できるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを部屋に持ち込まれるように、本人や家族と相談しながら対応しており、利用者それぞれが心地よく生活できる場づくりが提供されている。		